

「9組+a」の二次会報告

宮原 豊 (9組)

2019年2月8日(金)、関東65期の平成最後の新年会の後、最大の出席者数を誇る我ら9組の出席者7名のうち赤尾晴夫君、塚田道明君、保屋野良治君、牧野泉君、丸山隆平君、宮原豊の6名に、9組がいつもお世話になっている上原昇君(2組)、櫻田喜貢穂君(7組)に加え、今回は「蕨の会」成澤文和君(4組)と関賢治君(2組)、そして小林国雄君(7組)の合計11名が、飯田橋駅近くのカラオケ屋で二次会に興じた。

古希を過ぎた爺(じい)様にしては衰え知らず、それぞれに自慢の喉を披露した。毎回のよう律義に参加しながら絶対に歌わなかった保屋野君が前回から上手に歌うことが判明、赤尾君も塚田君も何だかんだと言いながら団塊世代の勤め人、長年培った職場でのサービス精神を発揮し、ブンヤの丸山君やトランペット吹きの牧野君の歌が上手いのは今さらコメントを要しない。上原君はさすが関東同窓会会長として本領発揮(カラオケが上手くなくては会長になれない)、櫻田君は職業柄か語りかけ言い聞かせるような歌、そして合流してくれた成澤君と関君はあちこちで歌っているらしく「場馴れ」した歌いっぱい、小林君は誠実な人柄を思わせる歌であった。自身についてはノーコメント。

昨年11月末、まずは丸山君から、そして塚田君から「今年は何で9組の忘年会の案内が来ないのか」と詰問された。だからと言って自らアレンジする気持ちはないらしい。赤尾君と相談して新年会にしよう、しかし新年会なら同期新年会に出席するのが最優先、その上でいつ9組新年会を出来るのか考え、結局 同期新年会の二次会として集まることにした。ここで強調したいのは、9組は二次会のために同期新年会に集まったのではなく、同期新年会に参集したついでに二次会をセットしたということである。

さて、当日の夕方に畏友・丸山君が「今晚、この後の7時に人と会う予定があるんだ」と、二次会の事は完全に忘れているらしい。「チミの為にアレンジしたようなもんだろう」と、むっとして迫るとようやく思い出したらしい。色々あったが、いざカラオケに行けば、丸山君の独り舞台。小林旭や井上陽水を熱唱。私がどうして「畏友」と呼ぶか知っていただけたら。細かいことは全て水に流して、次回の再会を楽しみにしている。

(写真: 2名帰り、最後まで残った9人。
左から赤尾、上原、関、成澤、塚田、小林、丸山、櫻田、筆者はカメラマン)

